

第75回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会「氷都新時代！八戸国体」が29日、八戸市、三沢市、南部町を会場に開幕する。地元開催のスケート国体は9年ぶり、青森県勢はアイスホッケー、スピードスケート、

フィギュアスケート、ショートトラックに選手、監督ら93人が参加。2月2日までの日程で、全国の強豪と氷上で熱い戦いを繰り広げる。各競技の県勢の行方を展望する。

（取材班）

八戸スケート国体 青森県勢展望

◇スピード（30日～2月2日・YSアリーナ八戸） スピードで上位入賞の期待が大きいのは、成年女子の八戸学院大勢。特に、前回3000



鬼頭琴音



澤尻磨里英

スピード

澤尻（八学大）2種目期待

以準Vの澤尻磨里英は、同種目で全日本選手権2位、インカレ5位と表彰台は射程圏内。1500メートルと合わせ、2種目でのトップ3入りを目指す。短距離2種目にエントリーした鬼頭琴音と共に、大学生活の集大成を示せるか。成年男子では、日本スケート連盟強化選手の一人、山本大史（八戸西高→明大）が実力を発揮できるか。昨年10月にYS八戸で行われた全日本距離別ではメダルを逃したが、インカレでは5000メートル2位、1万メートル3位と復調の兆しを見せている。少年は、男子の橋本芳彦（八戸西高）が不調だった全国高校選手権からの巻き返しを狙う。2000メートルは少年、成年の男女全てにエントリー。上位入賞の期待がかかる。

◇フィギュア（29日～2月1日・三沢アイスアリーナ）

青森は少年女子に渡辺倫果（青森山田高）と大澤寧子（三沢高）がエントリーし、都道府県成績で4年連続入賞を狙う。全国高校選手権では渡辺が20位、大澤が26位と入賞に届かなかったが、渡辺は昨年